



長崎県

制作 長崎県環境部環境政策課  
〒856-8570 長崎市江戸町2-13  
TEL095-824-1111 (代表)  
資料提供：九州農政局諫早湾干拓事務所

～豊かな自然を次世代に残すために～

諫早湾干拓地の水辺



自然観察のしおり



長崎県

## 目次

はじめに	… 1
1. 生きものたちがすんでいる場所	
①調整池	… 3
②干陸地(ヨシ原)	… 4
③農地・樹林地	… 4
2. 諫早湾干拓調整池及び水辺で見られる生きものたち	
○魚類	… 6
○植物	… 10
○両生・は虫類	… 12
○鳥類	… 15
○昆虫	… 21
○ほ乳類	… 23

## はじめに

諫早湾干拓事業(以下「干拓事業」という。)は、防災と大規模な優良農地を作ることを目的として、平成元年度より工事が始まりました。

平成9年4月に潮受堤防により海が締め切られ、平成20年3月に干拓事業は完了しました。

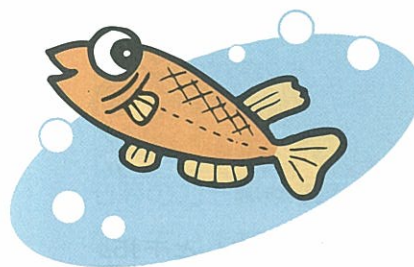
この事業で、九州最大の淡水化された2,600ヘクタールの調整池・干陸地(ヨシ原)が誕生しました。

調整池は、南側を雲仙の山々、北側を五家原岳に囲まれています。これらの山からは本明川をはじめ、諫早市の境川、仁反田川、雲仙市の山田川などの河川が調整池に流れ込んでいます。

また、調整池の西側には諫早平野が広がり、東側は有明海が広がっています。この諫早平野の大部分は、今から約600年前から少しずつ造られた干拓地からなっています。

調整池や干陸地ではヨシ群落や渡り鳥の渡来、淡水魚の生息、水生生物や昆虫などの生きものが見られるようになりました。

こうした貴重な自然を今後守り育てていくことが必要です。



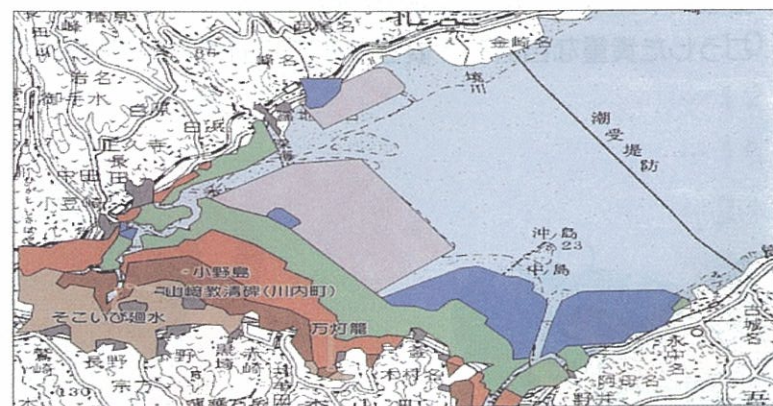
# 『諫早の水辺』ってどんなところ？

## 諫早の水辺周辺の地形

諫早の水辺は約2,600ヘクタールの広さの諫早湾干拓調整池からなっています。調整池は、南側を雲仙の山々二、北川を五家原岳に囲まれています。



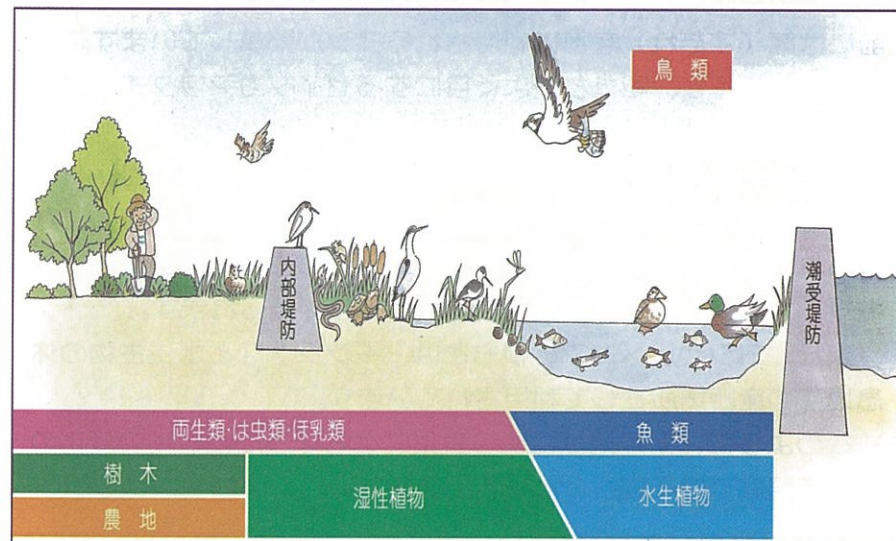
出典:「わたしたちのくらしと干拓」九州農政局諫早湾干拓事務所



出典:「わたしたちのくらしと干拓」九州農政局諫早湾干拓事務所

# 1. 生きものたちがすんでいる場所

諫早湾干拓事業により、諫早湾の干潟が失われましたが、九州最大級の淡水湖と干陸地（ヨシ原）などの新たな環境が創出されました。ここでは、それぞれの環境に適応したいろいろな生きものたちを観察することができます。



## ① 調整池

調整池内は平均 1.4m、最深部でも約 3.5m の浅い淡水域となっており、ギンブナやコイ、モツゴ等の淡水に生息する魚やエツ、ウロハゼといった汽水性の魚介類の生息場所となっています。

また、新しい堤防（潮受堤防）の内側の一部にはヨシが生えており、魚などの休息場所や産卵場所として利用されています。

一方、広大で静かな水面が出現したことによりマガモ、カルガモ等のカモ類が数多く飛来し、休息場所として利用されるようになっています。

## ② 干陸地（ヨシ原）

干拓地の周辺に、約 600 ヶワールの干上がった土地（干陸地）が出現しています。

干陸地内の土は、水際は湿った状態ですが、陸地に近づくにしたがって乾燥した状態になっています。このような環境の変化に応じて、すんでいる植物や動物にも変化がみられます。

水際の沖側には生け花によく使われるヒメガマが生え、その手前には簾（すだれ）などに利用されるヨシが繁茂しています。水際から離れると、私たちがよく目にするセイタカアワダチソウなどの雑草が生えています。

これらの植物の種類の変化とともに、水際ではダイサギ、アオサギ等のサギ類やチュウシャクシギ、イソシギ等のシギ類の姿がみられ、陸地に近づくるとトンボやカエル、カヤネズミ、オオヨシキリ、ホオジロ、セッカなどの動物の生息が見られます。

また、ヨシやヒメガマの根もとには、ギンブナなど水生生物の休息場所や産卵場所として利用されています。

このように、干陸地は環境の変化にともなった動植物の変化の様子を観察できる場所となっています。

## ③ 農地・樹林地

これまで、干拓地の農地では、土づくりが行われ、また、長崎県により、たまねぎ、にんじん、キャベツ、花などの栽培試験が行われてきました。

このような環境の中、丈の低い草地や裸地などを好むヒバリやタヒバリ等の小鳥やサギなどの大形の鳥をみることができ、チョウ類、バッタ類、コウチュウ類等の昆虫類の生息場所となっています。

なお、これからは本格的に営農が行われるため、環境は大きく変化するものと思われます。

## 2. 諫早湾干拓調整池及び水辺で見られる生きものたち

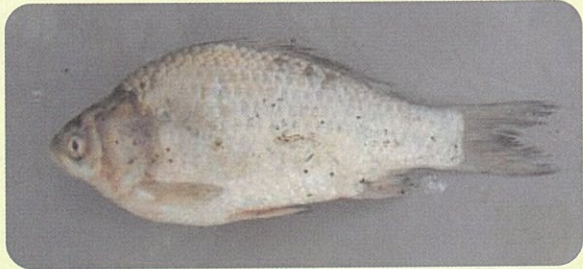


諫早湾干拓事業では、事業を実施するにあたり、環境の保全が適切に図られるよう九州農政局が環境モニタリング（環境監視）を平成元年度から行っています。環境モニタリングでは、水質など10項目の調査を実施していますが、大気や水質などの環境調査とともに野鳥、魚類などの水生生物、こん虫などの陸生生物の調査もあわせて実施しています。

以下に調査で確認された代表的ないきものたちを紹介します。

## 魚類

平成16年から平成18年に調整池で行われた魚類調査結果をみると6~10種の魚が現れています。もっとも多くみられるのはエツで、次にギンブナ、モツゴ、ナマズ、ウロハゼと続いています。



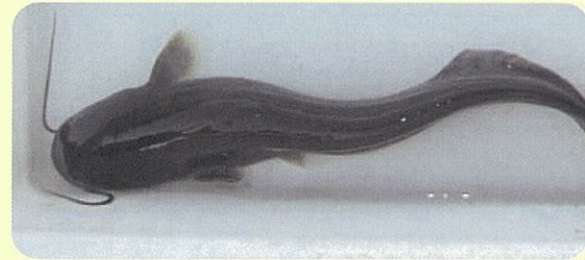
### ◆ ゲンゴロウブナ (コイ科)

琵琶湖だけに住んでいたが、人が全国に移した。水底の泥の中の小生物や石についた藻(も)などを食べる。



### ◆ ウロハゼ (ハゼ科)

灰色に近い濃い茶色の体に、黒い点などが少しある。川と海のさかい目あたりにすみ、小さな生き物を食べる。



### ◆ ナマズ (ナマズ科)

背びれが小さく、口ひげが4本ある。水草がはえて底が砂や泥のような川や池などで、カエルや小魚を食べる。



### ◆ オイカワ (コイ科)

卵を産む時期のオスは、体に緑や赤のしまもようがでる。水底の小さな生き物や石についた藻(も)などを食べる。



### ◆ ギンブナ (コイ科)

コイに似るが口ひげがない。水の流れがゆるやかなところが好き。水底の小さな生き物や藻(も)などを食べる。



◆ **エツ** (カタクチイワシ科)

体はひらべったい形をしている。有明海に流れこむ川にすみ、水中のプランクトンを食べる。(絶滅危惧Ⅱ類：国)



◆ **コイ** (コイ科)

4本の口ひげがあり、育つと大きくなる。水の流れがゆるやかなところが好きで、貝やイトミミズ、水草などを食べる。



◆ **バラタナゴ類** (コイ科)

体はひらべったく、上下の幅が広い。水の流れのゆるやかなところが好きで、右についた藻(も)などを食べる。



◆ **モツゴ** (コイ科)

口先が細くとがっている。水の流れのゆるやかなところが好きで、水底の小さな生き物や、藻(も)などを食べる。

